

平成30年度全国学力・学習状況調査結果（小学校）

小学校・国語

区分	国語A			国語B			
	久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)	久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)	
全体	71	71	70.7	55	54	54.7	
領域別	話すこと・聞くこと	91.6	90.7	90.8	64.7	64.1	64.6
	書くこと	74.8	74.4	73.8	46.1	44.5	45.6
	読むこと	71.2	72.9	74.0	52.1	48.1	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.4	66.9	67.0	—	—	—
問題形式	選択式	74.4	73.7	73.9	68.2	67.1	67.6
	短答式	37.3	35.4	35.5	—	—	—
	記述式	—	—	—	33.4	31.4	33.2

小学校・算数

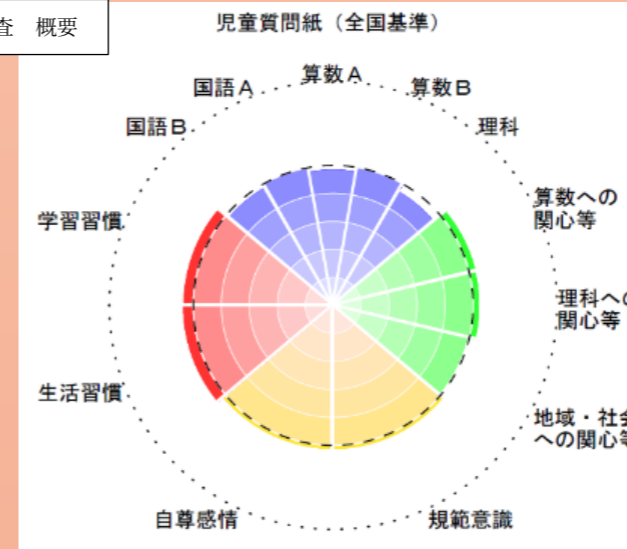
区分	算数A			算数B			
	久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)	久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)	
全体	63	62	63.5	52	50	51.5	
領域別	数と式	62.1	61.4	62.3	59.4	57.0	58.4
	量と測定	70.5	69.3	72.7	52.3	50.6	52.4
	図形	58.2	56.1	56.9	61.1	58.6	59.9
	数量関係	61.5	58.9	60.1	44.4	44.0	45.1
問題形式	選択式	61.8	60.1	61.8	56.1	54.7	54.0
	短答式	67.4	66.2	67.8	65.4	65.0	66.6
	記述式	—	—	—	44.7	41.7	43.9

小学校・理科

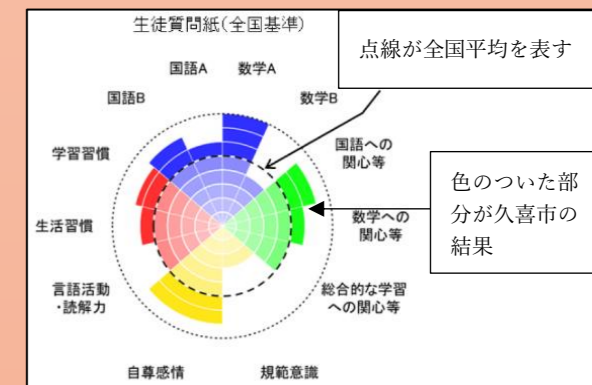
区分	理科			
	久喜市	埼玉県(公立)	全国(公立)	
全体	59	59	60.3	
領域別	物質	60.9	59.2	59.8
	エネルギー	51.1	51.5	53.1
	生命	71.1	71.5	73.6
	地球	47.7	48.9	49.5
問題形式	選択式	62.7	62.5	63.8
	短答式	72.7	74.6	79.4
	記述式	28.6	28.6	28.0

小学校・質問紙調査

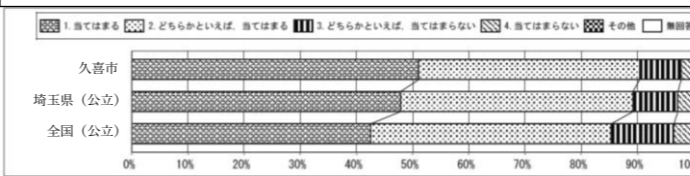
質問紙調査 概要



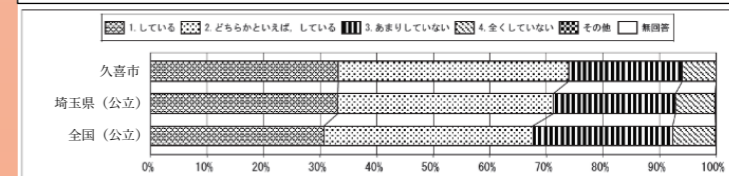
チャートの見方(例)



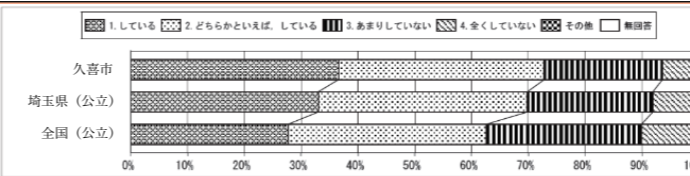
問 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



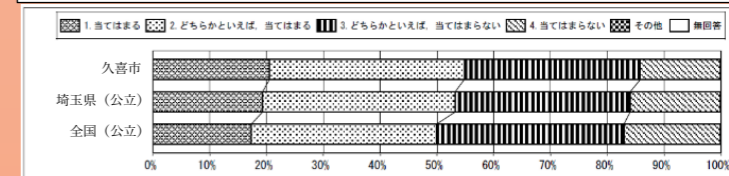
問 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



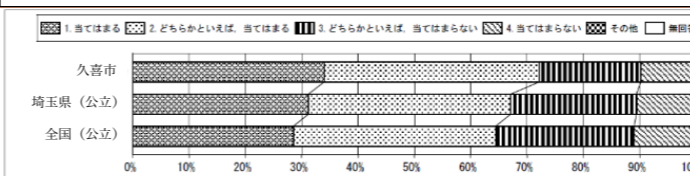
問 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。



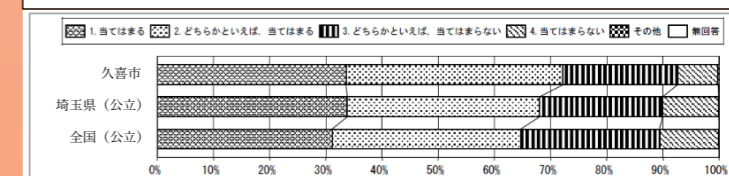
問 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。



問 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。



問 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。



◆成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○成果 (○：全国平均を上回った ▼：全国平均を下回った)

国語	平成29年度	平成30年度	
	全国平均正答率との差	全国平均正答率との差	
全体	▼1.5	○0.3	
評価	国語A「話す・聞く能力」	▼2.4	○0.8
	国語A「書く能力」	▼0.5	○1.0
	国語B「話す・聞く能力」	▼1.6	○0.1
	国語B「書く能力」	▼0.3	○0.5

算数	平成29年度	平成30年度	
	全国平均正答率との差	全国平均正答率との差	
全体	▼0.9	○0.5	
領域	算数A「数量関係」	▼0.3	○1.0
	算数B「数と計算」	▼0.4	○1.0
	算数B「図形」	▼1.4	○1.2
評価	算数B「数学的な考え方」	▼1.1	○0.5
形式	算数B「記述式」	▼1.8	○0.8

理科	平成30年度	
	全国平均正答率との差	
領域	物質	○1.1
評価	関心・意欲・態度	○0.9
	観察・実験の技能	○1.3
形式	記述式	○0.6

全体的には改善・向上が見られる結果となった。上の表は、昨年度から改善傾向が見られるものを一部抜粋した資料である。特に、国語Bにおいては、すべての領域で、全国平均を上回った。また、問題形式別では、すべての教科で、記述式問題の正答率が全国平均を上回った。さらに無回答についても、全教科60問中57問で全国平均よりも少なく、特に記述式問題についてはすべての問題で全国平均よりも無回答が少なかった。昨年度の課題を受けて、地域・保護者を含め各校の献身的な取り組みの成果と言える。

●課題

国語においては「物語を読んで、登場人物の心情について情景描写を基に捉える問題」「文章の中から目的に応じて必要な情報を捉える問題」の正答率が低かった。算数においては「小数の除法の意味について理解しているかを問う問題」「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題」「一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く問題」の正答率が低かった。これらを課題として、市独自の学力調査を利用して追跡調査を行うとともに、一人ひとりの正答状況に合わせた補習問題を提供することで改善を図る。